

シリーズ『県商功労者』つづき

近年の母校並びに同窓会の功労者を紹介します。

なおこの後、既に発行している『県商人物史』に追加掲載させていただきます。

大野 美代子先輩 85 回生(昭和 41 年卒業)

第 16 代・初の女性理事長として同窓会に貢献

昭和 22 年、兵庫県西脇市中畑町に誕生、中学校 2 年生で父の故郷である明石市魚住町に引っ越し魚住中学校に転校。好きな教科は数学と理科、クラブは科学部と卓球部に所属。負けん気と正義感が強く、しっかりと自分の考えを述べる子どもであった。



中学校卒業当時、時の明石市長・丸尾儀兵衛氏(県商30回生)

や生田英一初代新県商校長と父親が同郷で親交があったことから父の強い勧めにより、受験直前になって希望校を変更し県商を受験、昭和 38 年 4 月新県商2回生として入学した。入学当初は知り合いも無くおとなしく控えめな生徒であったが、入学早々廊下に実力考査の結果が張り出されクラスメイトに成績が知れ渡った結果、クラス委員長に選任され、以後、本来の負けん気と正義感で生徒会役員に就任し頭髪問題等で学校当局に抗議、因みに当時卓球部が無かったので生徒会時代に卓球同好会を立ち上げ、卒業の翌年、正式に卓球部として認められた経緯がある。

県商卒業後 18 歳で同窓会理事に就任、当時、大松理事長を筆頭に、河南先輩や神原先輩、椿原先輩など錚々たる先輩のもとで《県商魂》《県商 DNA》をしっかりと引継ぎ、結婚を機に一時退任したものの、平成 14 年、常務理事・事務局長に就任、谷先輩をはじめ、宝官、河合、石破各先輩理事長に仕え、平成 26 年第16代理事長に就任し、神商同窓会創設以来初の女性理事長として会の基盤強化、創立 140 周年記念事業等に尽力し令和元年退任。

《同窓会への多大なる功績に感謝》

伊藤 潤子(同窓会会長・85 回生)

生徒会役員の手腕を買われ、卒業後理事、常務理事(事務局長)、理事長そして名誉顧問として永きに亘り在職、正義感が強く人一倍の熱意を持ってことに当たり、本会所有の基本財産である土地を巡る問題や会計システムの近代化、120 周年事業の赤字等財政陥没からの脱却、健全化に導いた立役者である。また自らの力で膨大な書類を作成し国、法務局の認可を受け平成 25 年 4 月一般財団法人神商同窓会に移行した功績は大きく、この定款が現在の同窓会の礎となっている。

更に古い資料を解明し県商歴史資料室の開設に尽力。「県商の歴史」「県商人物史」「オーラルヒストリー」等歴史資料を制作。そして同窓会としては例のない法人格を有する本会であることから将来を見据え「財産管理事業部」「会員事業部」を設置。組織の見直しを実施し後任に託して退任された。

長い歴史を誇る母校並びに神商同窓会に於いて過去の偉大な先輩諸兄の《県商魂》《県商 DNA》を確実に引き継いだ唯一無二の同氏は同窓会の激動の時代を救った救世主であり、母校並びに同窓会への貢献は計り知れない。

同窓会への多大なる功績に感謝。

《同窓会に於ける役員履歴》

- ・平成 14 年 常務理事 就任
- ・平成 26 年 理事長 就任
- ・令和元年 名誉顧問 就任

